

今福線マップの完成から今後の展望

伊藤 清治

1. はじめに

今福線研究分科会は、今年度で4年目(22~25年度)の活動となります。暫定ではありますが昨年度作成した“今福線マップ”が完成しました。この今福線マップは(一般社団法人)中国建設弘済会の「中国地方地域づくり等助成制度」の助成金を受け完成したものであり、マップ構成は、昨年度分科会で作成した構成と同じ全体図1枚と詳細箇所3枚の4枚構成であります。

今回マップの完成を機に未調査であった下長屋トンネル坑内を踏査し、再度遺構の有効活用について検討するものであります。

2. 今年度の活動概要

今年度の活動は次のとおりです。

12月7日(土)AM...助成制度を利用して完成した今福線マップ(暫定版)の改善等の話し合い。 ウエスコ浜田支店にて 12名

PM...下長屋トンネル内及び旧線と新線の合流付近の踏査

佐野町の石本さん、金城まちづくり連絡会会長の川上さん、雲城まちづくり委員会の毛利さん、今福地区まちづくり推進委員会会長の田邨さん4名同行

宿泊 浜田市国府町の「千畳苑」 13名

3. 現地踏査結果

今回浜田市の許可を得て初めて下長屋トンネル坑内を踏査しました。坑口からのぞける範囲では比較的良好な状態であったため、トンネル坑内も良好な状態と考えていましたが、実際に中に入って見るとあまり良くない状態でした。亀裂からは水道の蛇口をひねったように毎分20ℓ程度(?)の湧水がでている箇所や軟弱粘土のようなバイオマットが生成されている箇所が確認できる等トンネル坑内はあまり良くない状態でした。特に今福側の半分が湧水や亀裂等が目立ち状態としては良くなかったような感じであった。また直線トンネルではあるものの、長さ1.6kmもあると中央付近では懐中電灯等の照明がなければほぼ真っ暗な状態であり、コウモリの格好の住処となっていた。

以上のように、坑内を歩くには、安全の確保や照明が必要であると感じた。



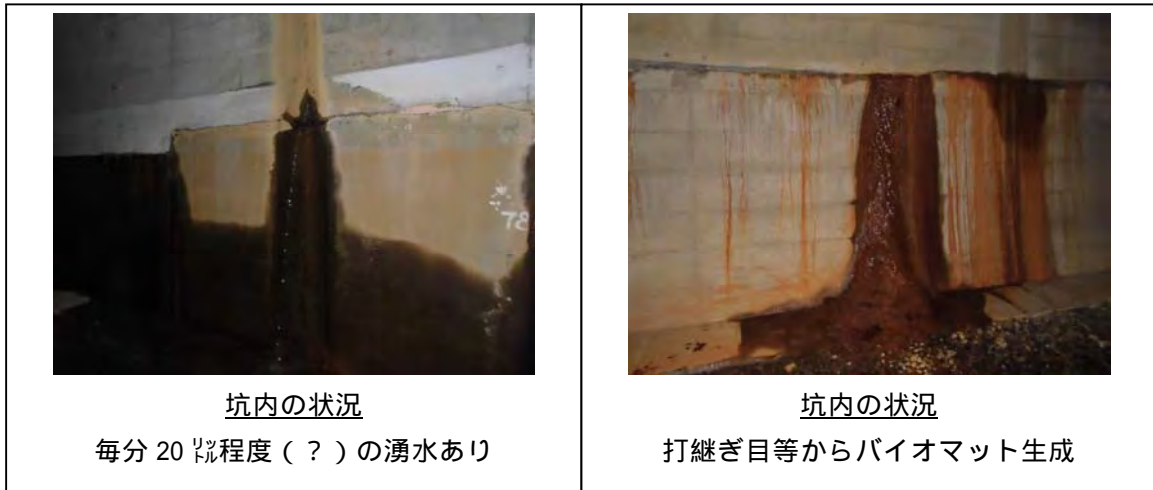
今福側から望む下長屋トンネル

1.6kmの直線トンネル



坑内の状況

湧水箇所等目立ち状態は良くない



4 . 今後の課題

今後の課題等としては、次のようなことが考えられる。

今福線マップの改善や更新

今回完成した“今福線マップ”はまだ不十分であり、話し合いにおいても改善する必要箇所が多数指摘されている。今後地元の方々の意見等も取込んで、より良いものに改善、更新していく必要があると考えます。

今福線マップの有効活用及び展開

今回完成した“今福線マップ”をネット上に掲載することが決定していますが、ネット上に掲載しただけでは周知方法としては不十分であり、島根県や浜田市の観光協会等との連携を図り、その存在をPRする必要があると考えます。

地域への負担軽減及び安全確保

今回の今福線マップの完成を機に、今福線を訪れる観光客や鉄道マニア等が多くなることが考えられる(?)、また期待したいが、たくさんの方が来た時、駐車場やトイレ、またゴミの発生及び処理の対応等で地元への負担が生じることが懸念される。また遺構には老朽化した箇所等が多数存在しているにもかかわらず、十分な安全が確保されていない状況である。よって行政等と連携を図りながら整備する必要があると考えます。

モデル区間の提案

今回踏査した下長屋トンネル周辺は旧線と新線の合流する唯一の場所であり、この区間には4連アーチ橋も存在している。トンネル坑内を含めこの区間を一つのモデル区間として有効に活用出来る方法の提案も考えられる。(例：坑内を整備し、馬車や低速の電動の乗り物等を走らせ、旧線と新線約4kmを周回する)

5 . おわりに

今回完成した今福線マップの存在をPRすることによって、鉄道遺構である今福線の地域資源としての知名度はアップするのではないかと考えております。今後は、この今福線マップを基に地元及び行政と連携し、前述の課題等を解決しながら、鉄道遺構である今福線を含めた地域の発展に繋がるような提案等ができれば良いと考えております。

以上